

一般枠

【山口県協議会】

徘徊を安全に見守る徘徊支援システム ～御守り～

委員長：木下大介

プロジェクトコーディネーター ニーズ：泉 博之

シーズ：相良二郎

1) 協議会の概要

協議会の特性（得意分野や検討フィールドなどの特徴）

- 認知症に由来する徘徊行動の抑制という視点ではなく、徘徊行動には目的があり、安全に行うにはどのような支援が必要かという視点で検討できる

協議会の目標

- ☑ 介護ロボットなどに関して開発すべき具体的機能や機器・システムを提案する

協議会のメンバー構成（職種・人数）

ニーズ委員 中村敏浩 濱本尊博 重富善則 山根享子	シーズ委員 板村宣芳
その他の委員（自治体など） 山本昌克	

2) ニーズの明確化：調査・結果考察

ニーズ調査の実施概要（目的、方法、対象、人数）

目的：施設における認知症高齢者の徘徊の実態

方法：アンケート、インタビュー調査

対象：アンケート 施設で働く医療従事者（6施設 53名）

インタビュー 施設の管理者（6施設 6名）

ニーズ調査のまとめ（調査結果・考察）

- ・アンケート実施前は、徘徊をさせたくない理由として、転倒への不安が大きな要因と考えていたが、結果より徘徊時の転倒は少なく、起立・着座・移乗時などに多く起こっていた。介護をする側の認識として、徘徊時の転倒とその他での転倒が混在していることがわかった
- ・なぜ、徘徊させたくないのかを探求することを目的を追加し、インタビュー調査を実施した。結果として、何が起こるかわからないという、漠然とした事故に対する不安、行動・所在が不明なため徘徊させたくない（転倒・自傷・他傷・誤飲・他人の部屋に入る、物を盗る）などがあげられた
- ・「認知症の徘徊＝問題行動」と捉えている傾向が強いと思われ、施設でのケアは抑制が主体となっていたと考えられる

2) ニーズの明確化：課題分析・解決のイメージ

解決すべき課題

休日や夜間などの人員の少ない時に、徘徊行動のある利用者を、施設内で安全に徘徊できるようにすること

課題解決の対象者

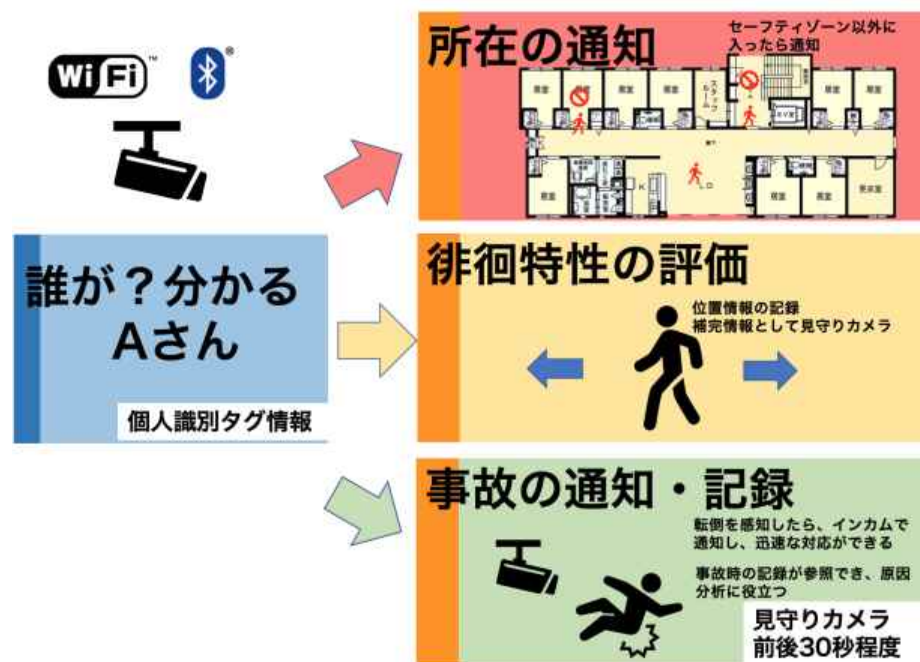
施設に入所する徘徊行動のある利用者

解決した時のあるべき姿・到達目標（わかりやすく具体的に）

介護施設職員の介護負担軽減（過剰な抑制の解消、過剰な監視の軽減）⇒監視から見守りへ
介護施設利用者の自立支援（不安の軽減、運動量の増加による生活リズムの改善）⇒抑制から許容へ

3) 課題解決のための方法：課題解決のための機器（新規ロボットなど）の概念

ロボットなどの概念図（ポンチ絵、解決のフロー図、関連図など）



ロボットなどの概要

徘徊支援システム

Bluetoothの機能による位置情報の検出、高さ情報による転倒の検出、カメラによる徘徊行動の記録や歩行評価。インシデント・アクシデント時の記録・原因分析

セーフティゾーン外へ出た場合や転倒を検出し、インカムを通じた職員への通知

利用場面

セーフティゾーン外での通知、転倒時徘徊特性の評価目的

期待される導入効果

徘徊の許容（抑制の解除）
アクシデントの予防と早期発見

3) 課題解決のための方法：課題解決のための機器（新規ロボットなど）の具体例

項目	概要
必要な 機能・技術	<ul style="list-style-type: none">・Wi-Fi環境・カメラ部：Bluetooth、Wi-Fiアンテナ内蔵、制御用マイコン、リチウムポリマー電池・センサー：Bluetooth、固体リチウム電池、加速度センサー、充電コントローラー、充電用アンテナ（プリントパターン）、防水仕様（シリコン樹脂封入）・インカム（必要な情報を音声で送信）・中央処理装置（パソコン）：情報処理（プログラム処理、記録用）
新規ロボットなど 導入による 課題解決の 評価方法	<ul style="list-style-type: none">・抑制の頻度・アクシデントの予防と早期発見・スタッフの業務量・徘徊特性の理解によるケアの質
既存/類似機器 との 相違点・優位性	<ul style="list-style-type: none">・既存製品に徘徊を支援するような視点（徘徊行動の記録・分析による徘徊特性を理解する）のシステムはない・導入の際に、バッテリー内蔵の機器を用いているため、おおがかりな設置工事を必要とせず、試用することができる。停電時にも使用可能である・施設側に大きな初期投資を必要としない、サブスクリプションサービスとして提供する